

e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2023

十勝の雪解け

お日様も目覚めるのが早くなり、6時前には朝焼けも見られるようになりました。日中10℃(+)を超える日もあり、朝だけ氷点下になりつつあります。牧場の水飲み場の解凍作業もなくなってきました。今年の最低は、12月突然来た-25℃だけで済みそうです。気温の上昇に伴い雪解けが早くなってきました。屋根からの落雪でお年寄りや連日被害のnews。道路は解けた雪でザクザクびちゃびちゃ。車は真っ黒(白)になり洗車場は満員御礼の日々。どうせ洗ってもと汚れた車ばかりです。

牧場の牛たちも、冬の間に着いた下腹のヨロイ(ふんなどの汚れが固まったもの)も乾いて毛替わりとともに取れやすくなってきました。屋根からの落雪で盛り上がったパドックもタイヤショベルのバケットではがし始めました。牛たちもモリモリ飼料を食べ始めています。春の予感を感じます。



活動のお知らせ

2/10(金)

事務局会議 ZOOM会議

- 1.次回シンポジウム2023のテーマ
- 2.第24回定期総会(特定非営利活動法人および肉牛飼養技術研修会)の開催
6月9日(金) 13:00~16:30 新得町 北海道立総合研究機構 畜産試験場 1階 講堂

次年度役員人事・事務局体制について

3/7(火)~10(金)

FOODEX JAPAN 2023 国際食品・飲料展「北海道十勝物産館」 東京ビッグサイト

3/28(火)

日本産肉研究会第31回学術集会 シンポジウムテーマ「なぜ放牧牛肉は普及しないのか」

13:00~16:45

- 北海道大学地球環境科学院オンライン(ZOOM) 参加費:500円(現地参加者の非会員のみ:講演要旨代)、オンライン無料
- ・「ニュージーランドの放牧牛肉の歩みと現状」David Allen (NL大使館 参事)
 - ・「流通業者から生産者に」(仮)花房 俊一(株式会社北の牧場舎)
 - ・「大学職員から販売者に」(仮)佐々木 学(株式会社わか)
 - ・「農経の視点から想う我が国の持続可能な畜産」(仮)正木 卓(酪農学園大学)
 - ・総合討論

NEWSばか読み

- セブンイレブン 卵製品一部販売休止 鶏卵300円台 鳥インフル影響 2/1:生産影響大
- 農水省 農産物物価指数116(20年比)2年間で16%上昇 飼料19%UP2/1:深刻
- 農水省 飛騨牛GIに登録2/1:
- 食肉メーカー 輸入食肉高騰から国産商品開発・販促強化 2/2:この機に
- 広島県 WCS生産で肥料を畜ふん切替えても同等の収量確保 2/2:堆肥活用まだまだ
- 鹿児島全共で66億円の経済効果2/3:5年後に
- 改正植物防疫 4/1から施行 飼料混入の雑草対象2/3:輸入リスク
- 22年一次農産品輸出額が11%増3800億円2/4:着実増加
- 近江牛生産者 年間出荷の1/3を輸出 バンコクに販促会社設立 2/7:積極策
- 和牛子牛相場1月 4ヶ月ぶりに下げ 仕入れ意欲鈍く2/7:実態
- 総務省 22年家計調査 食品支出最大の98万円 物価高 2/8:ひしひしと
- 富山県 最適な和牛種牛選定 自動システム開発2/8:AI化
- 政府 今秋に感染症統括庁創設に2/8:縦割りから横へ 発揮できるか
- 財務省 1月牛肉輸入1.5%減 4か月連続卸値高止まりで国産に切替 2/9:
- 国会 乳製品のCAで議論2/10:規約順守で誰が儲かっているのか
- 1月外食売上 2桁回復企業増える 客足戻る2/10:本格的
- 農水省 堆肥・汚泥の全国協議会設立2/11:規格化どこまで
- 22年農水産物貿易赤字7兆5千億円過去最高 海外依存 食肉1兆8千億円2/11:大きい
- 農連 議員会館前で酪農危機訴え集会2/15:がんばる
- 国土交通省 都市近郊農地 税制改革で特定生産緑地へ9割移行 2/15:食育へ
- 1月訪日外国人150万人 コロナ前56%回復 中国戻らず 2/16:ウェルカム?
- 人工授精師協会 22年北海道ホルス交配最小14%減65万頭 2/17:後に影響
- 耐暑性乳用種スリックホル研究進む 夏場の乳量落込み減や受胎率向上 2/18:温暖化対策
- 配合飼料12月価格全畜種平均の101千円/t最高水準2/22:どこまで
- 生乳受託量1月4.6%6ヶ月連続下回る2/22:抑制効果進む
- 食品高騰値札以上に価格改定 容量減で2/24:体重も減量で
- 農水省 基本法検証部会に食糧安保の理念提示2/25:必須
- 中酪調査 22年12月対酪農離農率6.5%拡大2/25:深刻その影響
- 総務省 1月消費者物価 4.2%上昇 食料エネ高騰2/25:影響ジワリ
- 冷凍野菜の輸入量115万t過去最高 冷凍食品需要増 2/27:新たな需要
- WHO 鳥インフルの哺乳類への移行続発2/27:ウィルス変化
- 22年全国家畜市場で福之姫産子がランキングトップ 2/28:資質産肉性も追求

東京直近NEWS(2/28 Shi-REPORT)

ホルス

販売状況非常に鈍く相場は下げ基調維持で相場安値維持。パーツについてはバラ系切落し継続もタイミング次第でパーツ余剰発生あり。特にロース、カタロースはシーズンオフから余裕ある場面あり。販売が非常に鈍いため、ホルスパーツスポットだが余剰発生場面増加。チルドが鈍いため、産地では冷凍仕込みで製造切替実施の模様。交雑牛も相場下落から2等級パーツがホルス販売枠に侵食し売り場の取り合い場面も発生。

経産牛

経産牛相場はガリ系下げ基調も脂物は相場維持。上々頭数は増加傾向、生乳需要の減少から出回り頭数はガリ枝中心に維持と補助金もあり当面は頭数増予測も夏場以降の頭数が不透明。パーツの引合は一定維持、ロース、バラ系欠品、一部赤身も逼迫継続。出荷頭数は増傾向から各産地屠畜加工が追い付かず制限される場面も。挽き材は一定注文維持しており各産地余裕ない状況、輸入品の動向に注視必要。

1. 肉用牛研究会報114号(2023.1)

(1)地域飼料資源を主体とした醗酵TMR給与による黒毛和種経産老廃牛の肥育試験(松浦千聖 他、宮崎大)

南九州の地域飼料資源として規格外で廃棄されたカンショがあり、これを主体に、水分調整にトウモロコシやフスマを用い醗酵TMRを調製し、黒毛和種経産老廃牛4頭(約197-230か月齢)に約4.5ヶ月間給与して肥育効果を検討しました。規格外カンショサイレージ主体の醗酵TMRはフリーク評点90.2点、好気安定性(変敗発生6.3日以降)などで品質は良好でした。短期肥育による枝肉格付け成績は未肥育の成績よりロース芯面積、BMS値などで肥育改善効果は認められましたが、収益性では、肥育2ヵ月以降は低下する傾向があり、地域飼料資源の高齢経産牛への有効活用の課題事例です。

2. 畜産技術812号(2023.1)

(1)国内情報:J-クレジット方法論AG-001(アミノ酸バランス改善飼料の給餌)に肉用牛・乳用牛が追加(春野篤、味の素(株))

J-クレジット方法論AG001は、家畜への粗タンパク質給与量を削減し、アミノ酸バランスを改善した飼料給与で温室効果ガス(GHG)の削減を低炭素投資と結びつけてクレジット化して資金化する制度です。豚やブロイラーで先行実施されてきた制度を牛へ適応し、飼料の制限アミノ酸とされるリジンと2010年以降のルーメンバイパス加工技術で製剤を給与し、高価・高タンパクの輸入大豆粕を置き換え、GHG排出削減でき、J-クレジットを活用した通常の生産が可能となりました。

2. 畜産技術813号(2023.2)

(1)技術情報:黒毛和種肥育牛におけるコバルト欠乏とその改善(松井徹、京大)

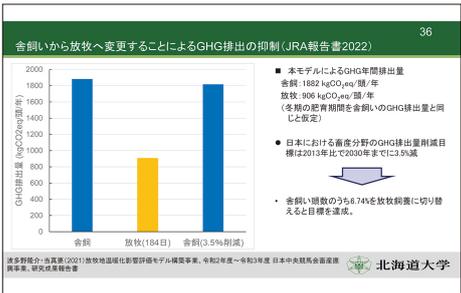
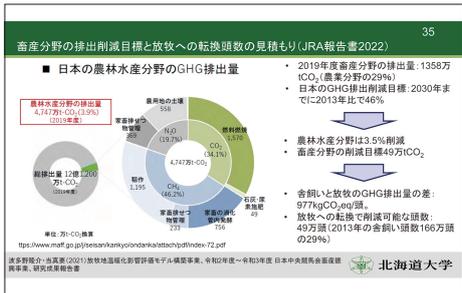
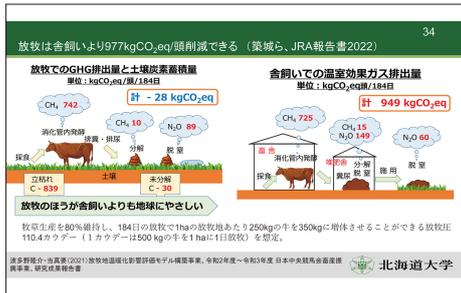
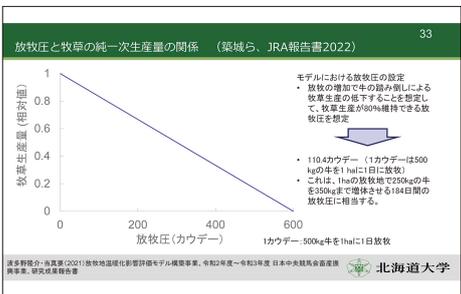
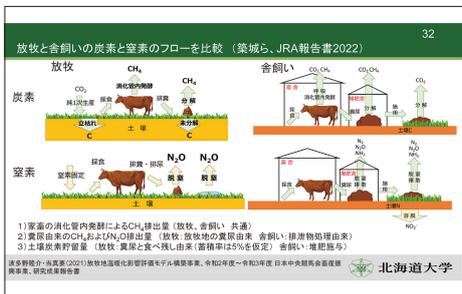
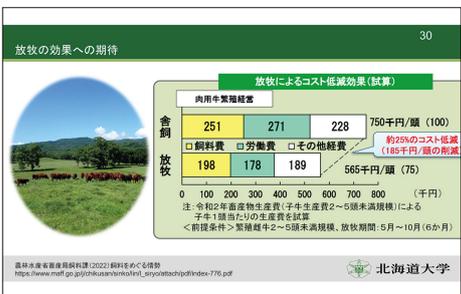
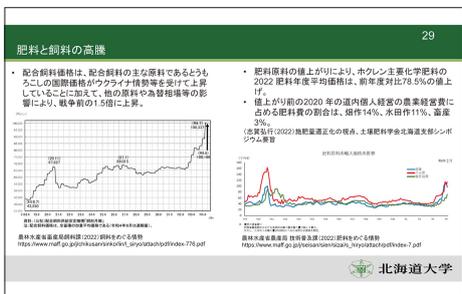
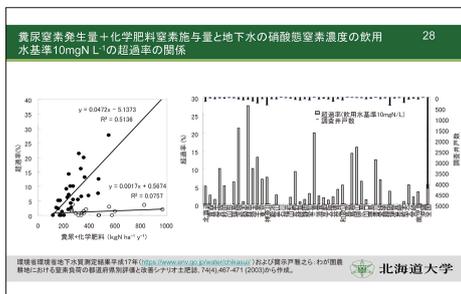
VtB12はコバルト(Co)を含み牛の微生物のVtB12合成にはCoが必須であり不足すれば地域性のある「くわず症」を起こします。肉用牛の日本飼養標準2008でのCo推奨量の要求範囲は0.07-0.11mgですが、国内では穀物主体の配合飼料多給の黒毛和種肥育牛ではCo欠乏症としては見られないものの血漿中メチルマロン酸濃度の上昇やVtB12濃度の低下などからみて、欠乏症傾向の防止を飼料からの摂取量で考慮すれば0.25mg/kgDM以上のCo給与が必要です。肥育牛で使われているミネラルブロックからのミネラル摂取量を30g/日とすれば3倍のCoが含まれるブロックであっても過剰摂取は起こらないと思われます。

(2)文献情報:3. 国産とうもろこしがですか? - 水田での子実とうもろこしによる濃厚飼料生産 - (篠遠善哉他、東北農研セ)

濃厚飼料用の子実とうもろこしを国内産で賄うためには耕種経営の水稲・麦・子実とうもろこし生産に必要な堆肥を耕畜連携で有効活用が必須です。子実とうもろこしの給与は丸粒ではなく粉碎・圧ぺんなどの加工が必要で、耕種農家にはとうもろこしの反収が低いことなど課題があり、耕畜連携の意義などの課題解決が残されています。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2022

基調講演「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産」5回シリーズ④
北海道大学名誉教授(土壌学研究室:環境循環型・土壌生物・微生物) 波多野 隆介氏



転載・再利用は固くお断りします